

10月24日 群馬県町村議会議員研修会

# 地方議会議員として何ができるか

10月24日、群馬県町村議会議員研修会が吉岡町文化センターで開催されました。毎年行われているこの研修会には、県内全町村の議会議員が参加します。玉村町からも16人全員が参加し、新たな議会構成になって初めての行事参加となりました。

東京大学大学院教授の金井利之氏による『町村議会に期待する』、岩手県大槌町総務部長の平野公三氏による『あの東日本大震災津波から2年6カ月 その経験と教訓を語り継ぐ』の2講演を聞きました。

金井氏は、一元代表制の意義について講演され、議会の役割の重要性を再認識しました。

平野氏の講演は、他人の書籍や文献により得た知識ではなく、みずからが経験した出来

事や、被災地の皆様の一刻も早い復興を願います。



震災直後の大槌町役場

事を語ったものでした。人生の終焉を生の声で伝えた内容に皆が感動し、聞き入っていました。生きることの大切さ・生きていることのありがたさを感じさせられた講演であり、被災地の皆様の一刻も早い復興を願います。

地方議会議員として、地域のため、住民のために何ができるか、改めて考えさせられる研修でした。

11月27日 群馬県町村議会広報研修会

# “伝える広報”から“伝わる広報”へ 読みやすさ・わかりやすさへの編集技術を研修

11月27日、群馬県町村議会議長会が主催する広報研修会に参加しました（群馬県内25町村中23町村が参加）。新たな広報特別委員会がスタートしてから初めて参加した研修だったため、議会だよりの発行目的やその重要性・必要性を再確認できました。



講師の広報コンサルタント芳野政明先生は、「これからは議会広報が自治体情報の主役になる時代だ」と言われていました。議会の行政チェックや政策提言機能など、議会の役割がよくわかり、議会広報らしさのある視点で企画すること、行政のいま・議会の焦点・地域政治の課題を住民の立場から伝えることなど、透明度の高い議会広報をつくらなくてはならないことを実感しました。

たまむら議会だよりは、定例会ごとに年4回発行しています。平成25年度は、議会構成が変わったことをお知らせする臨時号も発行しました。これからも、住民と議会をつなぐツールとして、議会のことをしっかりお伝えしていきます。次号が楽しみにするような編集ができるよう、これからも積極的に勉強していきたいと思えます。

こんな議案を審議しました

そこが聞きたい一般質問

委員会のつごき

その他